

2023 年度  
第 166 回日商簿記検定目標  
**公開模擬試験**

**解答解説**

3 級

(制限時間 60 分)

**資格★合格クリアール**

3 級 ①

商業簿記

第 1 問 (仕訳 1 組につき 3 点×15 箇所=45 点)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	オ	55,800	エ	55,800
2	イ	270,000	ウ	270,000
3	オ	150,000	イ	150,000
4	カ	4,481,000	エ	650,000
	オ	69,000	イ	3,900,000
5	イ	480,000	エ	480,000
6	ア	750,000	オ	1,200,000
	エ	429,750		
	カ	20,250		
7	カ	330,750	エ	30,000,000
	ア	29,669,250		

(次ページに続く)

3 級 ②

商業簿記

(前ページより)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
8	イ	394,500	オ	394,500
	カ	4,500	エ	4,500
9	エ	1,800,000	ウ	3,600,000
	オ	200,000		
	イ	780,000		
	カ	820,000		
10	エ	45,000	ア	45,000
11	オ	37,200	ウ	45,000
	ア	7,800		
12	カ	5,940,000	ウ	5,400,000
			オ	540,000
13	イ	5,000	ア	7,100
	エ	1,200		
	オ	900		
14	ア	60,000	ウ	60,000

(次ページに続く)

3 級 ③

商業簿記

(前ページより)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
	ウ	63,000	ア	63,000
15				

3 級 ④

商業簿記

第2問

(1) (1点×10箇所=10点)

①	②	③	④	⑤
売上	60,000	売掛金	売上	売上
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
45,000	買掛金	39,000	仕入	買掛金

(2) (  1つにつき1点×10箇所=10点)

総勘定元帳 (一部)

買掛金

11/9 ( 普通預金 ) ( <input type="text" value="36,000"/> )	11/1 前月繰越 ( <input type="text" value="129,000"/> )
11/15 ( 仕入 ) 12,000	11/6 仕入 156,000
11/18 普通預金 48,000	11/12 ( 仕入 ) ( <input type="text" value="96,000"/> )
11/24 ( 支払手形 ) ( <input type="text" value="120,000"/> )	11/21 ( 仕入 ) ( <input type="text" value="219,000"/> )
11/30 ( 次月繰越 ) 471,000	11/27 ( 仕入 ) 87,000
( <input type="text" value="687,000"/> )	( <input type="text" value="687,000"/> )

仕入先元帳

宗谷商店

11/9 普通預金払い 36,000	11/1 ( 前月繰越 ) 81,000
11/15 仕入返品 ( <input type="text" value="12,000"/> )	11/12 仕入れ 96,000
11/30 ( 次月繰越 ) ( <input type="text" value="216,000"/> )	11/27 仕入れ ( <input type="text" value="87,000"/> )
( <input type="text" value="264,000"/> )	( <input type="text" value="264,000"/> )

稚内商店

11/18 普通預金払い ( <input type="text" value="48,000"/> )	11/1 ( 前月繰越 ) 48,000
11/24 約束手形振出 120,000	11/6 仕入れ ( <input type="text" value="156,000"/> )
11/30 次月繰越 255,000	11/21 仕入れ ( <input type="text" value="219,000"/> )
( <input type="text" value="423,000"/> )	( <input type="text" value="423,000"/> )

3 級 ⑤

商業簿記

第3問 ( ) 1つにつき2点×17箇所=34点 [ ] 1つにつき1点×1箇所=1点 計35点)

問1

貸借対照表

X8年3月31日

(単位：円)

現金及び預金	( 731,000 )	支払手形	( 72,000 )
受取手形	( 90,000 )	買掛金	( 111,000 )
貸倒引当金	( 1,350 )	(借入金)	( 33,000 )
売掛金	( 249,000 )	前受収益	( 30,000 )
貸倒引当金	( 3,735 )	未払消費税	( 131,000 )
電子記録債権	( 105,000 )	未払法人税等	( 110,000 )
貸倒引当金	( 1,575 )	資本金	( 300,000 )
商 品	( 284,000 )	利益準備金	( 75,000 )
貯 蔵 品	( 6,000 )	繰越利益剰余金	( 912,841 )
未収収益	( 1,500 )		
前払費用	( 135,000 )		
備 品	( 270,000 )		
減価償却累計額	( 90,000 )		
車両運搬具	( 680,000 )		
減価償却累計額	( 679,999 )		
	( 1,774,841 )		( 1,774,841 )

損益計算書

自 X7年4月1日 至 X8年3月31日

(単位：円)

売上原価	( 1,586,000 )	売上高	( 2,970,000 )
支払家賃	( 180,000 )	受取手数料	( 120,000 )
水道光熱費	( 144,000 )	受取利息	( 9,000 )
通信費	( 104,000 )		
租税公課	( 44,000 )		
貸倒引当金繰入	( 3,660 )		
減価償却費	( 129,999 )		
(雑損)	( 2,000 )		
法人税、住民税及び事業税	( 275,000 )		
当期純利益	( 630,341 )		
	( 3,099,000 )		( 3,099,000 )

問2

282,500 円

# 日商簿記3級 公開模擬試験 解説

## 第1問 仕訳問題 (単位: 円) 目標時間: 20分

### 1. 商品の仕入れ

代金を本日 (X9年5月27日) に支払った旨の記述はなく、納品書兼請求書に「X9年6月30日までに合計額を下記口座へお振込み下さい」と記載されており、勘定科目の選択肢に金銭債務を計上するための買掛金勘定があるため、掛けにより仕入れたものと判断することができる。

(借) 仕	入	55,800 (*)	(貸) 買	掛	金	55,800
-------	---	------------	-------	---	---	--------

\* 送料も含めた取得原価 (納品書兼請求書の合計金額より)

### 2. 電子記録債務の発生記録

(借) 買	掛	金	270,000	(貸) 電	子	記	録	債	務	270,000
-------	---	---	---------	-------	---	---	---	---	---	---------

### 3. 電子記録債務の決済

(借) 電	子	記	録	債	務	150,000	(貸) 当	座	預	金	150,000
-------	---	---	---	---	---	---------	-------	---	---	---	---------

### 4. 給料の支払い

(借) 給	料	4,481,000 (*1)	(貸) 従	業	員	預	り	金	650,000 (*3)
未	払	金	69,000 (*2)	普	通	預	金	3,900,000 (*4)	

\*1 総支給額: 差引支給額 3,900,000 + 源泉所得税 300,000 + 社会保険料の従業員負担分 350,000  
 - 従業員が立替払いしていた費用の補てん額 69,000 = 4,481,000

\*2 従業員が立替払いしていた費用の補てん額

\*3 源泉所得税 300,000 + 社会保険料の従業員負担分 350,000 = 650,000

\*4 従業員が立替払いしていた費用の補てん額を含めた差引支給額

### 5. 受取商品券の精算

(借) 普	通	預	金	480,000	(貸) 受	取	商	品	券	480,000
-------	---	---	---	---------	-------	---	---	---	---	---------

### 6. クレジット売掛金 (手数料を販売時に認識する方法)

(借) 現	金	750,000	(貸) 売	上	1,200,000
	ク	レ	ジ	ット	売
	掛	金	429,750 (*1)		
	支	払	手	数	料
		20,250 (*2)			

\*1 クレジット決済高 450,000 - 手数料 20,250 (下記\*2より) = 429,750

\*2 クレジット決済高 450,000 × 4.5% = 20,250

### 7. 手形借入れ

借入れに際して約束手形を振り出しているため、手形借入金勘定により処理を行う必要があった。

(借) 支	払	利	息	330,750 (*1)	(貸) 手	形	借	入	金	30,000,000
	当	座	預	金						
		29,669,250 (*2)								

\*1 借入額 30,000,000 (利息控除前) × 2.7375% × 147日 / 365日 = 330,750

\*2 30,000,000 - 330,750 = 29,669,250

8. 商品の売上げ（発送費相当額を請求額に含めるケース）

商品代金と運送料を合わせた金額（390,000+4,500=394,500）を掛けとしているため、当該金額により売上計上を行う。併せて、当社から運送会社に支払う運送料（4,500）についても、発送費として計上する。

つまり、販売先との間で「運送料相当額を含めた当社が受け取ることのできる金額全体による取引」が行われ、それとは別に運送業者との間で「費用（発送費）を発生させる取引」が行われたものと捉える。

(借) 売	掛	金	394,500 (*1)	(貸) 売	上	金	394,500
(借) 発	送	費	4,500 (*2)	(貸) 未	払	金	4,500 (*3)

\*1 販売価額 390,000+運送料 4,500=394,500

\*2 先方に請求をしても、当社で支払う金額は自己負担の費用（発送費）として計上すればよい。

\*3 後日払いであり、商品の仕入代金ではないため、問題文の指示通り未払金を計上する。

9. 有形固定資産の期中売却

(1) 当期分の減価償却（当期首から売却時までの期間に係る分）

(借) 減	価	償	却	費	200,000 (*1)	(貸) 車	両	運	搬	具	減	価	償	却	累	計	額	200,000
-------	---	---	---	---	--------------	-------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---------

\*1 取得原価 3,600,000 ÷ 6年 × 4ヶ月 / 12ヶ月 = 200,000

(2) 売却に係る会計処理（当期分の減価償却以外）

(借) 車	両	運	搬	具	減	価	償	却	累	計	額	2,000,000 (*2)	(貸) 車	両	運	搬	具	3,600,000	
未	収	入	金	780,000															
固	定	資	産	売	却	損	820,000 (*3)												

\*2 当期首の減価償却累計額：取得原価 3,600,000 ÷ 6年 × 3年分 = 1,800,000  
1,800,000 + 当期分の減価償却 200,000 = 2,000,000

\*3 売却時の帳簿価額：3,600,000 - 2,000,000 = 1,600,000  
1,600,000 - 売却代金 780,000 = 820,000

または、貸借差額

(3) 上記(1)と(2)の合算・相殺 ← 解答となる仕訳

上記(1)と(2)をそのまま並べる形で仕訳を行うこともあるが、本問では「当期中の減価償却額を減価償却累計額の増額として処理しない方法によること」との指示により、次のような仕訳を解答する必要がある。

(借) 車	両	運	搬	具	減	価	償	却	累	計	額	1,800,000	(貸) 車	両	運	搬	具	3,600,000	
減	価	償	却	費	200,000														
未	収	入	金	780,000															
固	定	資	産	売	却	損	820,000												

10. 旅費の概算払い

概算額の支給であって、旅費交通費の発生額が確定したわけではないため、支給額は仮払金勘定により計上する。

(借) 仮	払	金	45,000	(貸) 現	金	45,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

11. 概算払いしていた旅費の精算

(借) 旅	費	交	通	費	37,200 (*1)	(貸) 仮	払	金	45,000
現	金	7,800 (*2)							

\*1 旅費交通費等報告書の合計金額より

\*2 概算払い額 45,000 - 37,200 = 7,800

12. 剰余金の配当

(借) 繰越利益剰余金	5,940,000 (*1)	(貸) 未払配当金	5,400,000 (*2)
		利益準備金	540,000

\*1 配当額 5,400,000 (下記\*2 より) + 利益準備金積立額 540,000 = 5,940,000

\*2 配当額 @ 1,800 × 発行済株式総数 3,000 株 = 5,400,000

配当の決議が行われたのみで、まだ支払いは行われていないため、未払配当金 (負債) を計上する。

13. ICカードの使用 (チャージ時に仮払金として処理する方法)

(借) 旅費交通費	5,000 (*1)	(貸) 仮払金	7,100
通信費	1,200 (*2)		
消耗品費	900 (*3)		

\*1 電車代 3,000 + バス代 2,000 = 5,000

\*2 郵便料金

\*3 文房具代

14. 貸倒処理後における回収

当期中に貸倒処理を行っていた債権を回収した場合、「当期中の貸倒処理 (貸倒損失の計上 or 貸倒引当金の充当)」を取り消すような処理を行う。本問の場合、一度充当した (取り崩した) 貸倒引当金を計上し直す処理を行う。

(1) 当期中に行われていた貸倒処理

(借) 貸倒引当金	1,200,000	(貸) 売掛金	1,200,000
-----------	-----------	---------	-----------

(2) 得意先の清算に伴う分配を受けたことに伴う会計処理 ← 解答となる仕訳

(借) 普通預金	60,000	(貸) 貸倒引当金	60,000
----------	--------	-----------	--------

15. 法人税、住民税及び事業税の確定納付

納付書の科目欄に「法人税」と記載され、納期等の区分には「確定申告」に○印が付されているため、法人税の確定申告に基づく納付 (確定納付) であるものと読み取ることができる。

(借) 未払法人税等	63,000	(貸) 普通預金	63,000
------------	--------	----------	--------

第2問

(1) 伝票記入（三伝票制）（単位：円） 目標時間：5分

1. 一部を現金で受け取り、残額を掛けとする売上

① 通常の会計処理

(借)	現		金	60,000	(貸)	売		上	330,000
	売	掛	金	270,000 (*)					

\* 売上高 330,000 - 現金受領額 60,000 = 270,000

② 伝票記入

この取引は一部現金取引（一部振替取引）に該当する。この場合、下記の2通りの起票方法が存在するが、振替伝票の金額欄に「270,000」が印字されているため、下記 i の方法によっているものと判断することができる。

i 分解方式（取引を単純に分解する方法）による場合

・入金伝票

(借)	現		金	60,000	(貸)	売		上	60,000
-----	---	--	---	--------	-----	---	--	---	--------

・振替伝票

(借)	売	掛	金	270,000	(貸)	売		上	270,000
-----	---	---	---	---------	-----	---	--	---	---------

ii 集約方式（取引を擬制する方法）による場合

取引の全体額を掛け売上として振替伝票に記入し、入金伝票には、現金受領額につき掛け代金の一部を回収したように記入する。

・入金伝票

(借)	現		金	60,000	(貸)	売	掛	金	60,000
-----	---	--	---	--------	-----	---	---	---	--------

・振替伝票

(借)	売	掛	金	330,000	(貸)	売		上	330,000
-----	---	---	---	---------	-----	---	--	---	---------

2. 売上返品

振替伝票に次の会計処理を記入することになる。

(借)	売		上	45,000	(貸)	売	掛	金	45,000
-----	---	--	---	--------	-----	---	---	---	--------

3. 一部を現金で支払い、残額を掛けとする仕入

① 通常の会計処理

(借)	仕		入	189,000	(貸)	現		金	39,000
						買	掛	金	150,000 (*)

\* 仕入高 189,000 - 現金支払額 39,000 = 150,000

② 伝票記入

この取引は一部現金取引（一部振替取引）に該当する。この場合、下記の2通りの起票方法が存在するが、振替伝票の金額欄に「189,000」が印字されているため、下記 ii の方法によっているものと判断することができる。

i 分解方式（取引を単純に分解する方法）による場合

・出金伝票

(借)	仕		入	39,000	(貸)	現		金	39,000
-----	---	--	---	--------	-----	---	--	---	--------

・振替伝票

(借)	仕		入	150,000	(貸)	買	掛	金	150,000
-----	---	--	---	---------	-----	---	---	---	---------

ii 集約方式（取引を擬制する方法）によった場合

取引の全体額を掛け仕入として振替伝票に記入し、出金伝票には、現金支払額につき掛け代金の一部を決済したように記入する。

・出金伝票

(借) 買	掛	金	39,000	(貸) 現	金	39,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

・振替伝票

(借) 仕	入	189,000	(貸) 買	掛	金	189,000
-------	---	---------	-------	---	---	---------

(2) 買掛金勘定と仕入先元帳（買掛金元帳）（単位：円） 目標時間：10分

総勘定元帳における買掛金勘定は、仕入先元帳（買掛金元帳）における宗谷商店勘定と稚内商店勘定を取りまとめた統制勘定である。したがって、買掛金勘定を取引先別に分解すると仕入先元帳（買掛金元帳）の記入内容となり、仕入先元帳（買掛金元帳）の内容を合算・集約すると買掛金勘定の記入内容になる。

1. 総勘定元帳

買 掛 金				
11/9	普通預金	36,000 <sup>(*2)</sup>	11/1 前月繰越	129,000 <sup>(*1)</sup>
11/15	仕入	12,000 <sup>(*4)</sup>	11/6 仕入	156,000
11/18	普通預金	48,000	11/12 仕入	96,000 <sup>(*3)</sup>
11/24	支払手形	120,000 <sup>(*6)</sup>	11/21 仕入	219,000 <sup>(*5)</sup>
11/30	次月繰越	471,000 <sup>(*8)</sup>	11/27 仕入	87,000 <sup>(*7)</sup>
<b>687,000</b>			<b>687,000</b>	

- \*1 宗谷商店に係る前月繰越 81,000 + 稚内商店に係る前月繰越 48,000 = 129,000
- \*2 仕入先元帳の宗谷商店勘定における 11/9 の借方記入内容より
- \*3 仕入先元帳の宗谷商店勘定における 11/12 の貸方記入内容より
- \*4 仕入先元帳の宗谷商店勘定における 11/15 の借方記入内容より
- \*5 貸借差額または仕入先元帳の稚内商店勘定における 11/21 の貸方記入内容より
- \*6 仕入先元帳の稚内商店勘定における 11/24 の借方記入内容より
- \*7 仕入先元帳の宗谷商店勘定における 11/27 の貸方記入内容より
- \*8 月末の日付（11/30）であり、仕入先元帳の稚内商店勘定に次月繰越が記入されているため、買掛金勘定においても次月繰越が記入されるものと判断することができる。

2. 仕入先元帳（買掛金元帳）

(1) 宗谷商店

宗 谷 商 店				
11/9	普通預金払い	36,000	11/1 前月繰越	81,000 <sup>(*9)</sup>
11/15	仕入返品	12,000 <sup>(*10)</sup>	11/12 仕入れ	96,000
11/30	次月繰越	216,000 <sup>(*12)</sup>	11/27 仕入れ	87,000 <sup>(*11)</sup>
<b>264,000</b>			<b>264,000</b>	

- \*9 総勘定元帳の買掛金勘定より、11/1 の記入は前月繰越のみであることが判明する。
- \*10 総勘定元帳の買掛金勘定における 11/15 の借方記入額より
- \*11 総勘定元帳の買掛金勘定における 11/27 の貸方記入額より
- \*12 総勘定元帳の買掛金勘定における次月繰越 471,000 - 稚内商店に係る次月繰越 255,000 = 216,000  
または、貸借差額によって求めることもできる。

(2) 稚内商店

稚 内 商 店				
11/18	普通預金払い	48,000 <sup>(*15)</sup>	11/1 前月繰越	48,000 <sup>(*13)</sup>
11/24	約束手形振出	120,000	11/6 仕入れ	156,000 <sup>(*14)</sup>
11/30	次月繰越	255,000	11/21 仕入れ	219,000 <sup>(*16)</sup>
<b>423,000</b>			<b>423,000</b>	

- \*13 総勘定元帳の買掛金勘定より、11/1 の記入は前月繰越のみであることが判明する。
- \*14 総勘定元帳の買掛金勘定における 11/6 の貸方記入額より
- \*15 総勘定元帳の買掛金勘定における 11/18 の借方記入額より
- \*16 貸借差額または総勘定元帳の買掛金勘定における 11/21 の貸方記入額より

第3問 貸借対照表と損益計算書（単位：円） 目標時間：20分

1. 商品の販売（未処理分）

(借) 売掛金	99,000	(貸) 売上	90,000
		仮受消費税	9,000 (*1)

\*1 税抜価額90,000×10%=9,000

2. 現金実査

(借) 租税公課	3,000 (*3)	(貸) 現金	5,000 (*2)
雑損	2,000 (*4)		

\*2 決算整理前の現金56,000（帳簿残高）－実際有高51,000=5,000（不足額）

\*3 期末日に購入した収入印紙（未処理分）

\*4 5,000－3,000=2,000

3. 当座借越

決算整理前における「当座預金墨田銀行」勘定の貸方残高33,000は当座借越額を示すものであり、これを問題文の指示通り借入金勘定に振り替える。

(借) 当座預金墨田銀行	33,000	(貸) 借入金	33,000
--------------	--------	---------	--------

4. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入	3,660 (*5)	(貸) 貸倒引当金	3,660
-------------	------------	-----------	-------

\*5 ① 貸倒引当金設定額

i 受取手形に係る分：受取手形90,000×1.5%=1,350

ii 売掛金に係る分：（決算整理前の売掛金150,000＋上記1.の未処理分99,000）×1.5%=3,735

iii 電子記録債権に係る分：電子記録債権105,000×1.5%=1,575

iv 合計：1,350＋3,735＋1,575=6,660

※ 貸倒引当金は、貸借対照表の資産の部における控除項目として表示される。その際、金額の前に△を付すこともあるが、本問では特段の指示が無い場合、そのような記号は付さずに解答すればよかった（有形固定資産に係る減価償却累計額も同様）。

② 貸倒引当金繰入額

6,660－決算整理前の貸倒引当金3,000=3,660

5. 売上原価の算定

会計帳簿上の決算整理は、下記(1)と(2)のいずれによることもできる。下記(1)の方法を採用した場合は決算整理後の仕入勘定残高が、下記(2)の方法を採用した場合は決算整理後の売上原価勘定残高が当期の売上原価を表すことになり、その金額を損益計算書において「売上原価」として表示する。

売上原価＝期首商品棚卸高 340,000（決算整理前の繰越商品勘定より）
＋当期商品仕入高 1,530,000（決算整理前の仕入勘定より）
－期末商品棚卸高 284,000＝1,586,000

(1) 仕入勘定で売上原価を算定する方法による場合

(借) 仕入	340,000 (*6)	(貸) 繰越商品	340,000
(借) 繰越商品	284,000 (*7)	(貸) 仕入	284,000

\*6 期首商品棚卸高。決算整理前の繰越商品勘定より

\*7 期末商品棚卸高。問題文の「上記1.に係る商品原価¥60,000は含まれていない」より、上記1.によって販売された分が適切に除かれている（下記(2)の\*10も同様）。

(2) 売上原価勘定で売上原価を算定する方法によった場合

(借) 売上原価	340,000 (*8)	(貸) 繰越商品	340,000
(借) 売上原価	1,530,000 (*9)	(貸) 仕入	1,530,000
(借) 繰越商品	284,000 (*10)	(貸) 売上原価	284,000

\*8 期首商品棚卸高。決算整理前の繰越商品勘定より

\*9 当期商品仕入高。決算整理前の仕入勘定より

\*10 期末商品棚卸高

6. 貯蔵品の棚卸

(借) 貯蔵品	6,000	(貸) 通信費	2,000 (*11)
		租税公課	4,000 (*12)

\*11 切手の未使用分

\*12 収入印紙の未使用分

7. 有形固定資産の減価償却

(借) 減価償却費	129,999	(貸) 備品減価償却累計額	45,000 (*13)
		車両運搬具減価償却累計額	84,999 (*14)

\*13 備品270,000 ÷ 6年 = 45,000

\*14 決算整理前の帳簿価額：車両運搬具680,000 - 決算整理前の車両運搬具減価償却累計額595,000 = 85,000 … ①

車両運搬具680,000 ÷ 8年 = 85,000 … ②

① = ②

∴ 当期中に耐用年数を迎えるため、備忘価額として帳簿価額1を残すように減価償却を行う。

決算整理前の帳簿価額 85,000 - 1 = 84,999

8. 定期預金に係る利息の未収分

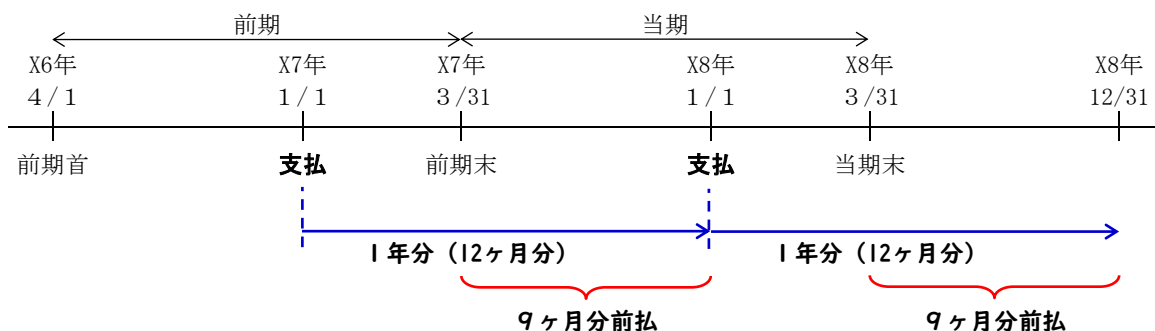
(借) 未収収益	1,500	(貸) 受取利息	1,500
----------	-------	----------	-------

9. 支払家賃に係る前払分

(借) 前払費用	135,000 (*15)	(貸) 支払家賃	135,000
----------	---------------	----------	---------

\*15 決算整理前の支払家賃315,000 × 9ヶ月 / 21ヶ月 = 135,000

なお、支払家賃勘定の決算整理前残高は、「前期末の前払分に係る期首再振替で計上された9ヶ月分」と「当期の支払いによって計上された12ヶ月分」を合わせた21ヶ月分になっていた。



10. 受取手数料に係る前受分

(借) 受取手数料	30,000 (*16)	(貸) 前受収益	30,000
-----------	--------------	----------	--------

\*16 受取手数料のうち45,000 × 2ヶ月 / 3ヶ月 = 30,000

11. 消費税に係る決算整理

(借) 仮受消費税	309,000 (*17)	(貸) 仮払消費税	178,000 (*18)
		未払消費税	131,000 (*19)

\*17 決算整理前の仮受消費税300,000+上記1.の未処理分9,000=309,000

\*18 決算整理前の仮払消費税より

\*19 309,000-178,000=131,000

12. 法人税、住民税及び事業税の計上

(借) 法人税、住民税及び事業税	275,000	(貸) 仮払法人税等	165,000 (*20)
		未払法人税等	110,000 (*21)

\*20 中間納付額。決算整理前の仮払法人税等より

\*21 年税額275,000-165,000=110,000

13. その他の留意事項

(1) 「現金及び預金」について

解答の貸借対照表上、現金や預金の各勘定残高は、まとめて「現金及び預金」として表示している。ただし、当座預金墨田銀行勘定については、貸方残高となっているものを借入金として表示するため、ここで集計する金額には含まない。

現金	51,000	← 決算整理後残高 (=実際有高)
普通預金荒川銀行	180,000	← 決算整理後残高 (決算整理前残高と同じ)
定期預金墨田銀行	500,000	← 決算整理後残高 (決算整理前残高と同じ)
	<u>731,000</u>	

(2) 「繰越利益剰余金」について

貸借対照表上の「繰越利益剰余金」は、決算整理後の残高ではなく、決算振替を通じて当期純利益を振り替えた後の金額となる。

決算整理後の繰越利益剰余金勘定	282,500	← 問2の解答数値。本問の場合、決算整理前残高と同額
当期純利益	630,341	← 解答の損益計算書より
	<u>912,841</u>	

以上  
(製作：公認会計士 山田和宗)